

# 地域農業の発展を目指して 次世代を担う水稲・梨農家のステップアッププラン

湯梨浜町 前田 佳寛

## 1 要旨

次世代を担う水稲・梨農家として、米と梨の両方で収益向上を図り、しっかりした経営基盤を作って経営を安定的に拡大させる。また、農業に関する研修や体験の場を提供することで、地域の農地農村を守るとともに、持続可能な地域社会の実現に貢献する。

## 2 はじめに

私は梨と水稲の複合経営を行っています。現在、就農8年目です。我が家は代々梨と水稲を栽培しており、就農6年目の令和2年に父から経営を引き継ぎ、認定農業者となりました。就農当初は水稲3ヘクタール、梨40アールほどでしたが、高齢化等を理由に離農されていく方の農地を引き受けながら、年々面積を拡大してきました。現在は、水稲1.3ヘクタール、梨1ヘクタールで農業を営んでいます。

今後も中心的な担い手として農地の受け手となる決意をしていますが、栽培面積の拡大に伴って作業量が増加した結果、所有機械の能力不足による作業遅れが経営上の問題となっています。特に水稲栽培でその影響が大きく、安定した収量が確保出来ないのが現状です。また、4～6月は、水稲も梨も繁忙期で両方の作業が重なるため、水稲作業が遅くなると梨の作業も遅れ、梨の品質にも影響が出ています。

私は次世代を担う若手水稲・梨農家として、地区の農地の受け手となり、農地を守り、さらに発展させる存在になりたいと考えています。また、農業に関わる人を増やすため、農業に興味を持っている地区の若者世代や移住者向け農業機械の実習や農業体験教室の開催等、研修や体験の場を提供する役割も担っていきたいです。

これらを実現するためには、まず、現在の問題点を解決し、米と梨の両方で収益向上を図ることで、しっかりとした経営基盤を作り、経営を安定的に拡大していくことが必要です。将来的には「家業」ではなく「事業」として農業経営を行う会社の設立も目指しています。そのための最初のステップとしてがんばる農家プランを活用し、自身の農業経営を発展させ、さらに地域農業の発展の第1歩を踏み出します。

### 【経営理念】

- 1 地域の農地を守る
- 2 地域農業を発展させ、地域の資産価値を上げる
- 3 地域の良い点を守りながら変えていく
- 4 新しい価値を創造する

### 3 プラン目標

プラン実施期間：令和5年度から令和7年度（3年間）

目標年度：令和8年度

#### (1) 水稻の収穫量向上

(単位：kg/10a)

品種	R3 (現状)	R4 (見込み)	R5	R6	R7	R8 (目標)
コシヒカリ	291	320	360	380	400	410
星空舞	354	355	360	380	400	410
きぬむすめ	400	420	440	450	460	480

(単位：kg/10a)

品種	R3 (現状)	R4 (見込み)	R5	R6	R7	R8 (目標)
日本晴	—	500	506	510	515	520

※湯梨浜町の基準反収 506 kg/10a

#### (2) 水田面積の拡大

現状（令和4年）1350a→令和8年2000a

拡大分は飼料用米（日本晴）を作付け

(単位：a)

年度	R4 (現状)	R5	R6	R7	R8 (目標)
面積	1350	1500	1600	1700	2000
（うち飼料用米）	(150)	(300)	(400)	(500)	(800)

(3) 梨の品質向上

(赤秀率)

(単位：%)

年度	R 3 (現状)	R 4 (見込み)	R 5	R 6	R 7	R 8 (目標)
二十世紀	49	49	50	52	55	55
新甘泉	63	63	63	64	65	65
王秋	54	54	55	57	60	60

#### 4 現在の状況と課題

##### 1) 水稻の収量・品質の低下【課題1】

収量の安定化と高品質米の生産には、適期移植と適期刈り取りが必須である。しかし、現在所有している機械は、私が就農した当時の栽培面積に見合った作業能力しか持ち合わせていない。そのため、作業に遅れが生じている。

###### (1) 田植え機

昨年、水稻栽培面積は約10ヘクタールであったが、                    の田植機1台と            馬力のトラクター1台で作業を行った。栽培面積に対して作業機械の能力が不足しているうえ、父と私の2人体制で梨の作業と水稻の作業（代かき、田植え）を分担して行っているため、苗運びと田植えを1人で行う必要があり、田植えを適期に完了させることが出来なかった。そのため、米の収量が少なく、米の売り上げに響いている。今年度から地区の農地を引き受けて水稻の栽培面積が13ヘクタールとなったことから、離農される方が使用していた5条植えの田植機を購入して田植えを行ったが、いまだ田植え機の性能が不足している状態である。

###### (2) コンバイン

現在、                    馬力のコンバインを所有している。しかし、老朽化しており、作業中にしばしば故障して作業が中断してしまい、刈り取り作業がスケジュールどおり行えていない。

また、私が水稻を栽培している圃場の多くは湿田地帯にあり、降雨の影響で圃場条件が悪化しやすく、コンバインの作業に苦勞している。特に刈り取り時期が10月以降となる「きぬむすめ」、「飼料用米（日本晴）」では、作業の遅れによって圃場条件がますます悪化するという悪循環に陥っている。この影響で収穫を断念する圃場もあり、米の売り上げ低迷に拍車をかけている。

##### 2) 梨の品質の低下【課題2】

梨も収量の安定化と高品質生産のためには、基本技術の徹底と適期作業が必須である。しかし、水稻と梨栽培の作業の最盛期は重なるうえ、水稻の規模拡大にともなう特に春作業の時間が増え、梨の作業の合間に水稻の作業を行うことが難しくなってきた。現在、一方の作業に専念すると、もう一方の作業が疎かになってしまい、適期作業が行えない状況であり、梨の品質が低下している。

##### 3) 栽培面積が拡大している（不耕作者や離農者の受け皿）【課題3】

耕作者の高齢化、体調悪化、死去等により、地区内でも離農者や不耕作者が非常に増えている。そこで、地区内の農地を守るために、今後も農地の受け皿となっていきたい。そのためには、安定した利益を確保しながら経営規模の拡大が重要であり、現在、規模に応じた適切な設備投資が必要な状況である。

## 5 解決方策

### 1) 水稲栽培の作業効率の向上による収量増加

#### (1) 密苗対応田植機（6条）の導入

現在所持している[ ]の田植機を密苗対応の6条植えに更新し、春作業の労働時間削減を図る。さらに、直進キープアシスト機能付きの機種を導入し、地域の若手農業者を臨時雇用することで、労働力を確保して作業時間の短縮を図り、移植適期内に田植えを完了させ、収量向上を図る。

#### (2) コンバイン（4条・70馬力）の導入

現在所持している[ ]馬力のコンバインを、4条刈り70馬力に更新し、収穫作業の効率化を図ることでスケジュール通りの刈り取りが可能となる。また、馬力が大きいコンバインにより、圃場条件が悪い場合でも収穫が可能となり、きぬむすめ、飼料用米（日本晴）をすべて刈り取ることが出来る。さらに、適期収穫により、品質悪化も防止できる。

### 2) 梨の品質向上

水稲の春作業を計画どおり実施し、梨の適期作業を行う。さらに、品種構成を見直し、水稲の春作業と最もバッティングする二十世紀梨の割合を減らし、赤梨（新甘泉、王秋、その他品種）を増やして春作業の労力分散も図る。具体的には、総栽培面積も現状よりやや減らし、量より質を求めた高品質な梨を生産して選果場以外の販売先を開拓し、梨の販売額を増やす。

#### 【梨の品種構成の見直し計画（面積：アール）】

品種	R3 (現状)	R4 (現状)	R5	R6	R7	R8 (目標)
二十世紀梨	60	50	50	45	40	35
新甘泉	15	20	20	20	25	25
王秋	10	14	14	14	15	20
その他	5	5	5	7	9	10
造成中	10					
総計	100	89	91	89	95	8.5

### 3) 栽培面積の拡大

地区の耕作をやめる人の農地を中心に、水田の借受けを積極的に行って栽培面積の拡大を図る。拡大した水田には飼料用米を作付けし、所得の向上と安定した経営基盤を確立する。

### 4) 地区内の若手オペレーターの育成

トラクター作業と田植え作業の講習会の実施および水稻栽培の実践圃場の設置により、地区内の若手オペレーターを最低1名育成する。育成したオペレーターは水稻の春作業時に臨時雇用して、作業能力の定着と向上を図る。

6 主な農業機械・施設所有状況

	区分	台数	能力	導入年	備考
1	██████████ ██████████	1		R1. 12. 4	
2	██████████	1		H27. 4. 25	
3	██████████	1		R3. 3. 30	
4	██████████	1	██████████	H13. 7. 6	
5	██████████	1	██████████	R4. 2. 1	██████████
6	██████████	1		H9. 1. 14	
7	██████████	1	██████████	H14. 12. 2	
8	██████████	1	██████████	H20. 3. 30	██████████
9	██████████	1		R3. 10. 1	
10	██████████	1		H14. 3. 29	
11	██████████	1		H6. 1. 24	
12	██████████	1		S61. 1. 19	
13	██████████	1		H17. 3. 18	
14	██████████	1		H12. 3. 19	
15	██████████	1	██████████	H25. 10. 2	
16	██████████	1	██████████	R4. 3. 30	██████████

7 主な農業機械整備計画

導入 年度	区分	台数	能力	取得価格(円)	備考
R5	コンバイン	1	4条・70馬力	10,369,000	
	小計	-	-	10,369,000	-
R6	田植機	1	6条	4,231,440	
	小計	-	-	4,231,440	-
R7					
	小計	-	-		-
合計		-	-	14,600,440	-



## 8 プランによる効果

### (1) 経営の安定化

性能の良い機械の整備を行うことで、水稲作業の省力化及び作業時間の短縮を図る。これにより、水稲の収量増加と梨の品質向上による収益増加につながり、経営が安定する。

### (2) 耕作放棄地の発生防止

経営基盤が安定することにより、地区の農地の受け手となって耕作面積の拡大が可能となり、耕作放棄地の発生防止に繋がる。

### (3) 地域への貢献

地区の若手オペレーターの育成、次世代の農業者の雇用・研修の場としての役割を担い、地域の農地農村を守るとともに、持続可能な地域社会の実現に貢献する。

## 9 役割分担と事業内容

### (1) 具体的な取り組みと役割分担

◎→がんばるプラン支援事業、○→支援事業以外の取り組み

内容	R5	R6	R7	役割分担
1 米の収量増・高品質化				
(1) 収穫時期の適正化				
コンバインの導入	◎			実施主体、県、町
作業スケジュールの改善	○	○	○	実施主体、普及所
(2) 田植時期の適正化				
田植機の導入		◎		実施主体、県、町
作業スケジュールの改善	○	○	○	実施主体、普及所
2 梨の品質向上				
(1) 作業時期の適正化				
作業スケジュールの改善	○	○	○	実施主体、普及所
(2) 品種構成と栽培面積の見直し	○	○	○	実施主体、普及所
3 栽培面積の拡大	○	○	○	実施主体
4 地区内の若手オペレーターの育成				
(1) 講習会の実施、水稻栽培実践圃場の設置	○	○	○	実施主体、普及所

(2) 支援事業の内容

項目	数量	取得価格 (円) 税抜き	負担区分(円)			
			※上限(県 3,000 千円、町 1,500 千円)			
			県 (1/3)	町 (1/6)	事業実施主体 (1/2)	
R5	コンバイン	1 台	10,369,000	3,000,000	1,500,000	5,869,000
R6	田植機	1 台	4,231,440	1,410,480	705,240	2,115,720
R7						
	合計		14,600,440	4,410,480	2,205,240	7,984,720

